

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

か…感じる心大切に み…みんなの心認め合い せ…せいっぱい や…やってみよう やりとげよう(R5末改定)

知 課題を見つけ、自分の意志で解決に向かうための学び合いができる子を育てます

徳 自分のよさやもっている力を発揮し、お互いの個性を認め合える子を育てます

体 心と体を鍛え、自分や人の生命と体を大切にすることを育てます

公 地域の人やものを大切に、共に生きる子を育てます

開 様々な社会の変化に柔軟に対応できる子を育てます

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

自分自身を高めていく力

具体化した資質・能力

課題を発見する力 発信する力 チャレンジ精神 主体的な学び

中期取組目標

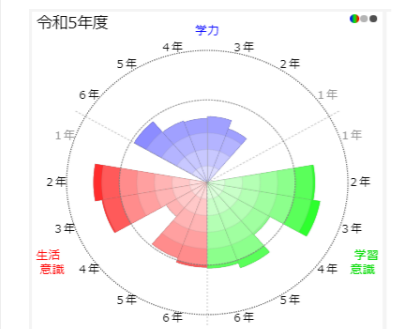
○子ども一人ひとりを大切に、活力と笑顔あふれる学校にします。

- ・個の学習状況を把握し、学ぶ楽しさを実感できる授業づくりを推進します。
- ・問題解決的学習を意識して、子どもの表現を大切にしながら学力を向上させます。
- ・一人ひとりが互いのよさを認め合い、自己有用感のある楽しい学校生活を過ごせるようにします。
- ・健康な心身をつくるための生活習慣が形成できるようにします。
- ・まちの「人」とのつながりや中学校との連携を意識し、豊かな体験を通して、地域全体で、まちを愛し生きる力のあふれる子どもを育てます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①児童が選択することで学習意欲が高まる場面を分析すること、振り返る力を高めていくための指導を繰り返していくことを意識し、自らの学びを見つめ、調整していることが児童の言葉から感じられる授業づくりに取り組む。 ②自主学習を活用し、漢字の定着、学習が積み重なっていく達成感の獲得を図っていききたい。
担当	重点推進委員会・学力向上委員会

学力向上に関わる本校の状況



学び方を知り、選択していくことを大切に取組を始め、3年目となる。日々の自主学習や学習用具の準備など、学習の習慣づくりをしてきたことや、振り返りをして次の学習に生かそうとする場面を意図的に設定してきたことで、振り返りの大切さが子どもにも浸透してきている。学年による学習や生活に対する意識のばらつきが大きい。自分たちの学びや成長に自信がもててなかったり、自分の頑張りが自己有用感に結びついていなかったりするところが見受けられる。

今年度の目標

自らの学びを見つめ、調整していくようの子を育てる

目標を実現するための具体的行動プラン

学習や生活についての意識の向上が学力の向上に繋がると考え、友達の話をよく聞いて良い考えを見つけようとすることや、学級や学年、学校や地域をよりよくするために自分たちにどんなことができるかを子どもがじっくりと考えられるようにする。そのためにも、子どもが自分自身の学習に関わることや、クラスでよりよく学び合う雰囲気づくりに必要感をもって前向きに取り組んでいけるよう、年度初めから全体研修や各教科による研修、メンター研、学年主任研などを開催して情報共有と、取組の進捗状況と成果の検証を行っていく。

全校で取り組んでいる具体的な取組

- ・めあての確認と振り返りの場面を設定した学習展開
- ・学習用具や持ち物、ロッカーや机の中の定期的な点検による学習環境づくり
- ・自主学習ノートを活用した家庭学習の習慣化と児童に合った学習を選択する支援
- ・3年生以上の国語辞典の携帯と活用
- ・学級担任制から学年担当制への変更、2週ごとに担当が入れかわり複数の目で子どもと集団を育てる
- ・振り返る力を高めるための書いた振り返りを蓄積していくようなポートフォリオやカードの工夫

上半期

- ・上半期の取組を振り返り、課題となっている部分や、思うように取組が浸透しない部分について組織的に改善案を出し合い、授業改善や子どもの学習意識の向上に繋げていく。
- ・考えられる取組
- ・半年間の自分達の成長を書き溜めた振り返りをもとに考える。
- ・自分たちの活動が学級や学年、学校や地域にどのような影響を与えているかを考えたり、知ったりして、自己有用感に繋げる。
- ・自分づくりバスポートなどを活用し、前半は意識していたが、段々意識が薄くなってきているものについて考え、よりよく成長していくためには意識の継続が必要であることを考える場面を設定する。
- ・11月のオープンスクールを保護者や地域に向けて子ども達が自分たちの学習の取り組みを知らせる場として活用する。

下半期

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
道徳教育	児童が自分を振り返り、よりよい生き方へと向かっていけるよう、各教科や行事の振り返りを横断的に扱い、自分自身を見つめる力を育てていく。そのために年度初めに道徳科の年間指導計画と別業を見直し、どのように指導していくか見直しをもつようにする。
担当	道徳部

豊かな心に関わる本校の状況

縦割りグループである「きらぼか班」の活動が3年目となり、子ども達の中にも活動や意図が浸透している。昨年度からはより異学年の交流が活発になり、特に1、6年生においては、互いに関わり合う中で大きな成長が見られた。委員会活動を中心に、子ども達が自分たちの働きによって学校を安心できる居心地のよい学校にしていこうと活動する雰囲気がある。昨年度は人権について考える期間も長く設定し、各学年の実態に応じた取組が展開された。いじめを嫌う雰囲気や、居場所をつくることや、相手のことを知ろうとする大切さについて、考えを深めたり広げたりする中で心を豊かに成長させる児童も多くなった。一方でYPアセスメントでは、自分のよいところに目を向けられていない児童や、自己有用感が得られていない児童もいる。これらの児童が前向きに生活していけるよう、一人ひとりが学校づくりの中で役割を意識でき、それを果たそうとしていくことができる活動を考えることが大切である。

今年度の目標

仲間とのふれあいを通して、一人ひとりが自分のよさを見つめ、よりよい生き方を求めようとする子どもを育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

1、6年生との出会いやきらぼか班の立ち上げをきっかけに、学年をこえて豊かな学校をつくっていくこととする意識をもてるよう、次のような場を活用する。

- ・学校目標「か み せ や」の具体的な実現に向けた取組の話し合い
- ・6年生による1年生のサポート
- ・1年生によるスタートカリキュラムの実践と、それに対する全職員、全学年の理解
- ・支援級担任による、全校に向けた「支援級ってどんなところ？」の説明
- ・きらぼかをはじめましての会、きらぼか全校集会、きらぼか班で遊ぶ会と繋がる6年生を学校のリーダーとして全校で育てていくための取組
- ・4、5年生による愛川合同宿泊体験学習
- ・学年による発表を入れた音楽朝会
- ・月ごとに全学年で考える道徳の内容項目を定め、朝会、特別活動、他教科とを関連付けた道徳科の学習展開

上半期の取組を振り返り、課題となっている部分や、思うように取組が浸透しない部分について組織的に改善案を出し合い、子どもの意識の向上に繋げていくと共に、次の学年に向けた取組の中でさらに豊かな心の育成をねらっていく。

考えられる取組

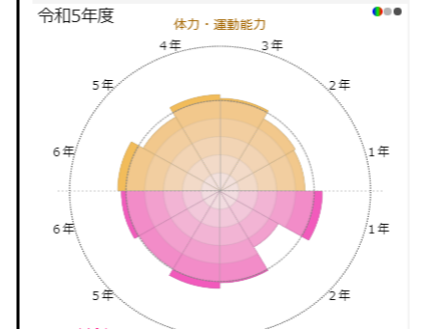
- ・人権月間での子ども達からの問題意識の提案と学年の実態に応じた取組
- ・パティ学年によるスポフェスに向けた準備、練習
- ・5年生が中心となり、6年生がサポートするきらぼか班の活動
- ・3年生による2年生へのリコーダーを教える会
- ・6年生から保護者への「卒業を祝う会」
- ・6年生から5年生への「想いを繋ぐ会」
- ・全校から6年生に向けて「ありがとう6年生の会」
- ・羽ばたけ6年生の会と卒業式
- ・全学年、1年間の学びや成長を振り返る機会
- ・修了式

下半期

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	日常の外遊びの推奨や委員会活動などを主体としたイベントや集会の工夫によって運動への意欲を高める活動の充実を図る。給食指導を生かして、バランスよく食べることの大切さや、食べ物が自分の体を作っていくことを豊かに学び、自分づくりにつなげていけるようにする。
担当	防災・安全・保健・体育部

健やかな体に関わる本校の状況



体力テストの結果は概ね各学年市平均並みであるが、決まった運動の習慣がある児童と、そうでない児童の二極化が進んでいる。中休みの過ごし方では、天気の良い日は外に出て体を動かすことを推奨しているが、自分から外に出て体を動かすことを楽しむ児童と、外に出ても自分のやりたいことが見つけれずにいる児童がいる。一昨年度より、週の中に昼休みを設けて校庭で遊ぶ取組も実施している。体育の学習では陸上運動やボール運動を好む児童が多く、友達を応援する姿や、チームで協力して練習する姿が見られる。鉄棒や跳び箱といった器械運動では高学年になるほど苦手意識の高い児童が多くなる傾向にある。給食指導においては、昨年度、学年によって食べ方にばらつきが見られた。個人差を認めつつも、健康な生活のため「食べる」ということの大切さを知り、正しい食習慣を身に付けていくことも大切である。

今年度の目標

心と体の健康を考え、進んで体力を高めていこうとする子を育てる

目標を実現するための具体的行動プラン

低学年では、遊びの中で体を動かすことの楽しさや気持ちよさを味わい、いろいろな動きに取り組む機会を増やすようにする。

中学年では、低学年で取り組んできた遊びの動きを生かして、様々な運動に取り組んでいけるようにする。友達と教え合い、励まし合っていくことでより運動が楽しくなることも学んでいけるようになる。

高学年では、自分の得意な運動とそうでない運動がはっきりしてくることを理解しつつも、自分で目標を設定し、友達と助け合いながら達成に向けて粘り強く取り組むことの楽しさや充実を感じられるようにする。悩み事や不安が大きくなっていく時期でもあることを、自身の体験や友達の話から知る。その上で未来に自分がやってみたいことやなりたいたい自分の姿を思い浮かべ、実現するための根幹に自身の心身の健康があることを捉えていけるようにする。

広い校庭を生かし、委員会主催による全校参加の運動イベントを計画し、継続的に全校が運動に取り組んでいけるようにする。

栄養士と教職員で給食指導について共通理解を図り、学年による指導のばらつきを無くして健康のために正しく食べる食習慣づくりに取り組む

上半期

低学年では 前期で知ったり身につけた運動遊びや、体力テストの結果から、さらに動きを高めるための遊びや場の工夫を考え、自分たちで動きを充実させる楽しさを味わうことができるようになる。早寝早起きや食後の歯磨きなど、自分が普段何気なくやっている生活習慣について、その良さを感覚的に捉え、大切にしていこうとする気持ちをもてるようにする。

中学年では、学習した運動についての練習の仕方を知り、休み時間や放課後に実践することで、より体力や技能が向上することを理解し、運動に進んで取り組みたいという気持ちももてるようになる。また、規則正しい生活習慣を続けていくことが、自身の健康維持にどのようにつながっていくのかを理解し、実践していこうとする意欲につなげる。

高学年では、生活の様子から望ましい運動習慣について考える。体育の学習では動きを高めるために必要な練習や、中休みや放課後にできそうな運動を知り、実践してみようとする意欲がもてるようになる。そこから生涯スポーツを楽しんでいこうとする素地を養う。また、けがや病気の防止、飲酒や喫煙、薬物の危険性についても理解を深め、これから先の自分の心身の健康を自分で大切にしていこうという意識を高めるようにする。

下半期